

トピック

三種類の人が実践する覚りへの道のプロセスについての小論

[A1] 法（教え）の起源が素晴らしいものであると示すために〔、その起りである『覚りへの道を照らす灯明』の〕著者（アティシャ）の偉大さを示す

[A2] 実践的な教え（gdams ngag・ダムガク）に対して尊敬を生じさせるために〔説かれている〕法の偉大さを示す

[A3] その二つの偉大さを備えた法について説法と聴聞をどのようにすべきか〔を示す〕

[A4] 実践的な教え（gdams pa）によって弟子をどのように導くかというプロセス

[B1] 道の根本である師に師事する仕方

[B2] 〔師に〕師事したのち、どのように知恵を養うかというその順序

[C1] 〔仏教を学ぶ〕余裕のある境遇をフルに活用するよう勧める

[C2] 〔有暇具足を〕フルに活用する仕方

[D1] 道一般の設定について確信を生じる

[D2] それを効果的に活用する仕方の本論

[E1] 小人物と共通の道のプロセスを通して意識を養う

[E2] 中人物と共通の道のプロセスにおいて意識を浄化する

[E3] 大人物の道のプロセスにおいて意識を浄化する

[F1] 大乘に入る入り口は発菩提心のみであると示す

[F2] その心を生じさせるやり方

[G1] 菩提心を養う順序

[G2] 〔菩提心が〕生じたと判断できる基準

[G3] 儀軌によって〔菩提心を〕維持する仕方

[H1] まだ〔発願心を〕得ていないものに〔発願心を〕得させる

[I1] 誰から〔発願心を〕受けるかというその対象

[I2] 誰が〔発願心を〕受けるのかというその抛り所

[I3] どのように受けるのかという儀軌

[J1] 準備行の儀軌

[K1] 特別な帰依をするべきである

[L1] 場所を飾り、抛り所を配置し、供養の品物を準備すべきである

[L2] 祈願して帰依をする

[L3] 帰依することになる学びの対象を述べる

[K2] 〔覚りのための〕資糧を積む

[K3] 考えを養う

[J2] 本行（dngos gzhi）の儀軌

[J3] 終わりの儀軌

[H2] 既に得た〔発願心を〕衰えさせずに維持する

[I1] 今生において発菩提心を衰退させない因について修習する

[J1] 発菩提心に対して歓びの力が増大するために、利益を念じるよう修習する

[K1] 最上の福田（供養処）となること

[K2] 害のない福德を援助する

[J2] 発菩提心そのものが増大するために〔一日に〕六回菩提心を生じさせるよう修習する

[K1] 誓願の発心を捨てない

[K2] 〔発菩提心を〕増大させるよう修習する

[J3] 菩提心を生じる対象である衆生を決して忘れずに修習する

[J4] 福德と智慧の資糧を積むよう修習する

[I2] 他の生においてもその〔菩提心と〕離れない因について修習する

[J1] 〔菩提心を〕衰退させる四つの黒法を捨てる

[J2] 〔菩提心を〕衰退させない四つの白法を修習する

[H3] もし衰えたら再生させる方法

[F3] 発菩提心ののち、〔訓練項目について〕訓練する方法